

# 「長年の慢性的なアレルギー疾患が…」

10年以上の慢性的なアレルギー疾患（アトピー性皮膚炎）でした。

でも軽症なので、治そうとの意志は強く持ちませんでした。年に数回、痒みが生じるたびに、いつもの皮膚科医院（保険診療）の診察を受けることにしていました。

ところが、酷くなったので今回は「強いステロイド」に替えましょう。これが先生の再診断でした。その薬効、まさに抜群。特に、右腕の皮膚が今まで見たことの無い滑々とした美しさで蘇ってきたようでした。この時の喜びはこの上なしの態で、「あー、綺麗に治るんだ」と感激しました。

ところが、20日過ぎた頃に、全く予期しない「首下から足首」までの全身的な大炎症となり果てました。大中小の桜吹雪ならぬ「瘡蓋」の大発症です。さらに、痛し痒しです。何と良くなる診断ではなく、悪化診断だったわけです。

怒り心頭です。医院診断への不信が強まりま

した。それで再受診は即刻諦めることにしました。これまでの保険診療はもう止めることにして、自由診療に切替えることにしました。

県外の「鶴見クリニック」を頼ることにしました。それまでの新刊・古本・図書館の本を讀書散策する中で、鶴見先生の著書に突き当たりました。「病気を根治（完治）させる医療及び予防」を信念として堅持されている、頼りがいのある医師（先生）に違いない、と合点がいきました。前述の皮膚科医院での治りが良くなるならぬ場合には鶴見クリニックを、「駆け込み寺」（医院）として、受診しようかとも考えたこともありました。新型コロナウイルス感染症の拡大の中、2020年4月から治療を受けています。

ところで、鶴見クリニックの受診経過（治療記）を述べることにします。

初診で、先生はこの症状は「治るから」と早々に言明されました。これには少々驚くと共に安心しました。過去、他医院の受診歴で、「治る」との言明を受けたことは皆無でしたので。何年

小片がこぼれ落ちていきます。朝起きて早々にまた掃きとりです。

痛し痒しが続く症状では、風呂にも毎日入らざるをえません。しかし、風呂に入ることの方が身体全体を掻きやすく、皮膚小片も散らばりません。浴槽内では脚が引きつるほど酷く掻くので、底には沢山の皮膚小片が溜まります。ここでも浴槽には念を入れた清掃です。二度ほどは浴槽が「血の池地獄」のように染まりました。これまた驚きです。それでも、出血や膿が全く出ないのが不思議でした。好転反応の一つなのでしょう。衣服が症状で汚れずに済みました。

風呂が一番癒しやすく、最高5時間半も入浴したことが二回ほどありました。この時には、掻き疲れて洗い場にぐったりと身を伏せたこともありました。余りの酷さに日中だけでなく、早朝や深夜にも入りました。日々少しずつ良くなっていくのが感じられて、治す意欲も出て来ました。

皮膚の症状が不均等に良くなる中でも、時間差で「両脚のふくらはぎがパンパンに張ったり、両足の甲が小高い山のようにむくんだり、両手の甲が膨らんだり、両手の平の皮膚下にもぶつ



ぶつが発症したり、両腿の筋肉痛が生じたり、頭にも発症・首にも発症」したりしました。立っているのが辛い時もありました。起きては掻き、寝ては掻き、風呂で掻きの癒しの連続が続きました。半年経た10月頃には大分症状が和らぎ、身体が楽になりました。

半断食（ファステイング）と処方箋指示の治療を受けて一年経ちました。今では痒みも痛みも殆ど無くなりました。皮膚の艶も良くなりました。身体動作も身軽によく動けるようになりました。朝起きも気持ちよく布団から出られます。排便も一日二回以上が当たり前のようになりました。これまで、台所を手伝う時には、洗剤で



2020年4月18日撮影



にも亘る薬漬けと通院が当然のようで、「治る見込み」など全く真摯に聞いたことは有りませんでした。

鶴見クリニックの治療では、半断食（ファステイング）と処方箋の指示を受けました。初期の頃は、つらい痒みと痛みを癒すために、自宅で全身のあちこちを毎日掻きまくりました。掻くたびに皮膚が小片としてポロポロ・ポロポロと剥がれ落ちてきます。毎回あちこちと広く散らばるので、床箒で塵取りに沢山掃きとりしました。就寝でもやはり掻くので、シーツには皮膚



2021年2月19日撮影